



北方民族博物館だより

No.77



H9.63 布製ナーナイ刺繍<小さなクマが彼の世界に> 1997年収集
ヘレナ＝キレ作 ロシア／トロイツコエ 縦80.5cm×横51.5cm

ナーナイ女性は刺繍の腕前を競い、衣服や道具を美しく飾っていた。この作品の中央には色系で子グマが刺繍され、それを取り巻く白糸の刺繍はアムール川の流れのようである。流れのなかには、魚がはね、トリが鳴き、蝶が舞っている様子がみえてくる。作者のヘレナ＝キレは絵画もよく描いている。

- 1 表紙 布製ナーナイ刺繍
- 2 保莉実写真展～カントリーに呼ばれて／講座「アボリジニってどんな人たち」
- 3 講習会「デジタルカメラ教室」／講習会「紙ブーメラン教室」／ロビー展「ポータルバーニからの贈り物」
- 4 INFORMATION



保苅実写真展

カントリーに呼ばれて～ オーストラリア・アボリジニと ラディカル・オーラル・ヒストリー

2010.4.29-6.20

当館の特別展示ではこれまで北方に暮らす先住民の文化を主なテーマとしてきましたが、今回はオーストラリアの先住民であるアボリジニの人びとを保苅実さんの写真と著作『ラディカル・オーラル・ヒストリー』からの文章で紹介しました。

保苅さんはオーストラリア・アボリジニの歴史を研究する歴史学者です。オーストラリア北部で、アボリジニのグリーンジのグループの人びとから彼らの歴史を聞くことになります。けれどもその内容は、洪水が蛇によってひきおこされたとか、実際にはアボリジニの村を訪問したことがないケネディ大統領が来たというようなことだったりします。ではグリーンジの歴史家は、間違っただけを語っていることになるのか…若き歴史学者である保苅さんは、こうしたことをひとまず全部聞いてみようという立場をとることにします。そしてここからグリーンジの人たちの歴史観を探ろうとします。

とても残念なことに、保苅さんはオーストラリアでの調査中に発病し、32歳の若さでお亡くなりになりましたが、写真や文章を残されました。逝去後に出版された『ラディカル・オーラル・ヒストリー』は各界に影響を与えています。

展示の開催にあたっては、ご家族をはじめ、写真使用許可のために尽力下さったオーストラリアの関係各位、映像を作成下さったオーストラリアのRonin Film社、オーストラリア体験キットを貸与下さった在札オーストラリア領事館、ご後援下さったオーストラリア大使館、豪日交流基金ほかから多くの協力をいただきました。特に写真家の露口啓二さんは、全展示写真のプリントをして下さいました。

オーラル・ヒストリーは関係者が語る歴史のことです。アボリジニの歴史物語りに耳を傾けていただきたいという願いどおり、大量の文字パネルにもかかわらず、一つ一つ丁寧に読まれている姿が見られました。



国際博物館の日記念事業 講座

アボリジニってどんな人たち？ ～オーストラリア先住民の経験と現在

2010.5.29

講師 窪田幸子氏

(神戸大学大学院国際文化学研究科教授)



アボリジニの文化について研究をされている窪田幸子氏を講師にお招きし講座を開催しました。窪田氏は、オーストラリア・アボリジニの女性と社会変化、先住民と国民国家、先住民と開発、先住民のアートをテーマに長年調査研究を続けてこられました。こうした豊富な研究成果から、アボリジニ文化入門ともよべるお話をいただきました。

窪田氏が調査を行っているのは、オーストラリア北部のアーネムランドとよばれる地域です。現在アボリジニはオーストラリア全体で約35万人ということですが、そのうちの約2万人がここに暮らしています。アーネムランドは他の地域に比べると、植民者から暴力を受ける経験が少なく、それははじめにこの地に来たイギリス人が伝道者であったことや、この土地がイギリス人にむかなかったことが理由になっています。かつては男性はカンガルー、ウミガメなどを、女性は魚介類、植物などを得る狩猟採集生活でしたが、現在は現金収入を得る仕事をしています。それでもライフルや4WDを使いながら、狩猟採集を行うこともあるそうです。

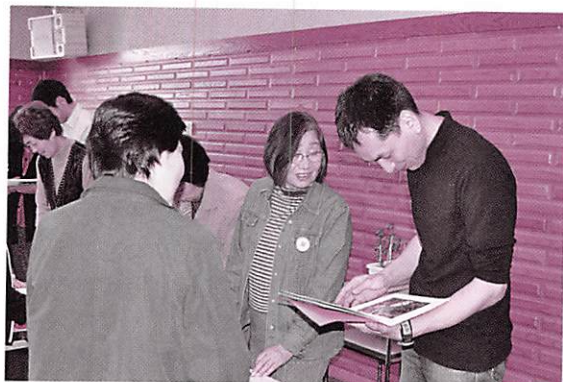
オーストラリアは白人、イギリス系の文化を中心とする白豪主義をとってきましたが、1970年代からは多文化主義の国へと変化してきました。「アボリジニ」は社会問題であると同時に、オーストラリアのアイデンティティのよりどころとなっています。またアボリジニの土地権主張への理解も広まり、絵画、踊り、歌など伝統的アボリジニ文化への評価も高まっています。

講習会

写真を楽しむ！デジタルカメラ教室＆
かんたん写真絵本づくり

2010.5.2

講師 小寺卓矢氏（写真家）



写真絵本を講評する小寺卓矢氏（右端）

写真展の開催にあわせ、小寺卓矢氏を講師に、デジタルカメラ教室を開催しました。

はじめにデジタルカメラの使い方や構図について学んだ後、博物館の周りで各自撮影を行いました。その後プリントした写真を使って絵本づくりを行い、最後に講師から講評を受けました。

講師の丁寧な指導に、参加者は新たな写真の楽しみを感じていたようです。

ロビー展

ポータルバーニからの贈り物

2010.6.26-7.4

カナダの小学生との交流をきっかけに、網走市がカナダのポータルバーニ市と姉妹都市提携を結んだのは昭和61（1986）年のことです。それから24年もの長きにわたり、網走市とポータルバーニ市は、教育、文化、産業、経済等多岐にわたって豊かな交流を続けてきました。

ポータルバーニ市のあるバンクーバー島が、北方民族博物館が文化を紹介する北西海岸インディアンの人びとが暮らす地域でもあることから、網走・ポータルバーニ姉妹都市交流協会との共催で、両市の交流の歩みを紹介する展示を企画しました。

展示の開催にあわせて、友好の証に、カナダの国の木であるカエデの葉をイメージした花壇「ポータルバーニ・ガーデン」もオープンしました。これは造園施工を道立オ

講習会

飛ばしてキャッチ！
紙ブーメラン教室

2010.5.3

講師 渡辺秀樹氏

（日本ブーメラン協会北海道地区代表）

オーストラリアの先住民アボリジニの道具であるブーメランに親しむ講習会を開催しました。

今回は牛乳パックをつかった紙ブーメランを各自で作ри、その後博物館の庭で投げてみました。タイトル通りの「飛ばしてキャッチ！」とはなかなかありませんでしたが、簡単な作りの道具に参加者はすっかり心を奪われていました。本講習会の開催にあたっては、日本ブーメラン協会から協力をいただきました。



紙ブーメランの投げ方を指導する渡辺秀樹氏（左端）



ロビー展 ポータルバーニからの贈り物会場

ホーツク公園が行い、維持管理を網走・ポータルバーニ交流協会と当館で行うものです。

7月4日にはカナダ産のメープルシロップを使ったクッキーやホットケーキ、アイスティーの提供を行うポータルバーニ・カフェも開催し、にぎわいました。

今後の両市の交流が、ますます発展し、さらに実りをもたらすことを願うものです。

第25回特別展 トナカイのパーカとアザラシのブーツ～北方の衣文化をさぐる

平成22年7月17日(土)～10月17日(日)

観覧料 一般450円 65歳以上300円

高校・大学生150円

常設展示とのセット割引、団体割引有り

主催 北海道立北方民族博物館

協力 東京家政大学博物館、文化学園服飾博物館、近藤敬治氏、呉人恵氏、高橋佐貴子、津田命子、スチュアート ヘンリ氏、大島稔氏、佐々木史郎氏

人類が北方の寒冷な環境へと生活の場を広げるためには、さまざまな知恵と技術が必要でした。その最も重要なものの一つが、衣類です。本展では、北方の先住民族が伝えてきた衣類の素材、機能、技術などの特徴について世界の他地域の衣文化と比較しながら紹介します。



館長に着任した岡田淳子です。

初めての女性館長で、少し緊張しています。私は30年余り、極北の文化に関わりをもって生きてきました。

当博物館とのお付き合いも20年に及んでいます。見学に来てくださった方々とお話できるのを楽しみにしておりますので、どうぞ、お会いした折には声をかけてください。

INFORMATION

行事報告

◆5月30日(日)に北海道民族学会との共催で、「先住民アーティストの誕生：アボリジニ芸術の展開」(講師：窪田幸子神戸大学大学院教授)を北海道大学で開催しました。

◆6月19日(土)にはくぶつかんクラブ「サケの皮でしおり&パッチづくり」(講師：日比野美保解説員)を開催しました。

◆6月26日(土)に「岡田館長の講話の会：20世紀末のポトラッチ祭り」を開催しました。

博物館運営評価委員会

◆6月25日(金)に第一回博物館運営評価委員会を開催しました。



職員の異動等

〔指定管理者〕

館長 岡田淳子
博物館課長 高橋利雄
主査(総括) 佐々木智英
主査(本部) 吉野守(新規採用)
主任 小林ひろみ
主任 石原生久代
主事 菅原章子
日比野美保
永瀬早苗(新規採用)
臨時職員 中村裕美

〔北海道立北方民族博物館駐在〕

学芸主幹 齋藤玲子
主任学芸員 笹倉いる美
学芸員 渡部裕
中田篤
角達之助

〔退職〕

博物館課主査 伊藤和宏
博物館課主事 中尾亜美

指定管理者

◆北海道立北方民族博物館は平成22年4月1日から平成26年3月31日まで、財団法人北方文化振興協会が引きつづき指定管理者となりました。

設置者は北海道教育委員会(北海道教育庁生涯学習部生涯学習推進局生涯学習課 011-204-5742)です。

北方民族博物館だより
No. 77

平成22(2010)年7月13日発行
編集・発行 北海道立北方民族博物館
〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1
電話 0152-45-3888 fax 0152-45-3889
e-mail: tonakai@hoppohm.org
http://hoppohm.org

指定管理者
財団法人北方文化振興協会